

# 開発コンサルティング業界の声



(株)オリエンタルコンサルタンツ  
グローバル  
取締役副社長  
森本 裕二氏

## 適正なインフラ輸出の実現を

政府主導の「質の高いインフラ輸出」政策に関しては、基本的に賛成であり、日本の国益にとってはプラスになると考えている。

その一方で、私たちコンサルタントを含めた民間企業の対応力を政府には考慮してもらいたいという気持ちがある。日本の技術者のレベルは申し分ないが、語学力、異文化適応力などが、まだまだ不足している。それゆえ、せっかく

の技術力を100%相手国に伝えることができないケースが出てきて、海外の日本の技術力に対する評価を下げるにつながるのではないかと、懸念される。これは、真の“質の高さ”を実現していくために配慮されるべきことだと考える。

インフラ輸出などの大型案件に関しては、民間企業の準備に関する時間・コストなどを把握して、より適正なインフラ輸出を官民挙げて実現していきたいというのが、私たち開発コンサルティング企業

の願いだ。

なお、SDGsに関しては、十分な情報が民間レベルまで下りてきていないのが現状である。SDGsはMDGsからステークホルダーが広がった開発目標であり、全ての国の民間企業が関わっていくべきことではあるとされているが、その点が意識化されていない。そのため情報を広く周知させるのが急務なのではないか。

貧困削減にとってインフラ整備は重要なファクターであり、インフラ輸出とSDGsは一体になっていることを、もっとアピールして良いと考えている。



(株)片平エンジニアリング  
インターナショナル  
開発業務本部 統括部長  
山宿 壮氏

## 女性技術者の活躍に期待

現在、道路などハード面の国際協力事業は中国の台頭もあり、従来通りの対応だけでは、コスト面で国際競争に勝てないというのが現状である。

そこで、情報通信（ICT）技術を生かし、道路と流通網整備など、ハードとソフトを一本化して日本の技術とノウハウを売り出していくのが「質の高いインフラ輸出」ではないかと考えている。

その効果的な展開を図る上で大きな問題になっているのが、人材不足である。特にハード面を支える海外志向の技術者の不足が顕著になっている。「質の高いインフラ輸出」という政策に基づき、積極的に事業拡大を行いたいのが、こうした課題を受け、足踏みをせざるをえない状況にある。

SDGsに関しては、具体的な目標・ターゲットがあることによって、私たちコンサルタントにとって事業戦略を立てる上で役立っている。

また、ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）への対応という点では、女性エンジニアのきめ細かい視点などに大いに期待している。従来、ハード面に特化していた開発コンサルティング企業はどうしても男性が多い職場であったが、ハードとソフトが一体化したODA事業が重要となる中、ソフト人材の確保・育成も欠かせない。そこで、青年海外協力隊やNGO職員などの経験者で、ソフト分野に強い女性コンサルタントも、開発現場で活躍している。こうした女性の活躍がソフト分野の強化になればと期待している。